<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Title</td>
<td>「交わり」を求めて 〈『オハイオ州ワインズバーグ』覚書〉</td>
</tr>
<tr>
<td>Author(s)</td>
<td>斎藤 忠利</td>
</tr>
<tr>
<td>Citation</td>
<td>一橋論叢 58 1962-08-01</td>
</tr>
<tr>
<td>Issue Date</td>
<td>1962-08-01</td>
</tr>
<tr>
<td>Type</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
</tbody>
</table>

URL: [http://doi.org/10.15057/3335](http://doi.org/10.15057/3335)
「交わり」を求めて

齊藤 忠利

人間とは、人の間と書く。従って、人間を人間たらしうるなら、
他の人間とは、人が人の間と生きること—互いの人格的な交わり
の中に生きること—に他ならない。人がこの「交わり」を失
ったとき、人は人でない。人という人間の間では、
あることである。由来、人間では、人間でない。人間は、グロテス
クな存在である。チャールズ・ドン・アンデスンの「グロテス
クな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在」の意味」の

この作品に認められている人物がグロテスクな存在であるの
は、それぞれの人物が自分自身の「真実」に生きようとして、
他者としての存在を認められる。グロテスクな存在である

人々から誤解されてしまうためであり、これらの人物は、グロ
テスクな存在であるために「交わり」を求めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテス
クな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられ
ている。この作品は、グロテスクな存在であるために「交わり」を求
めてもそれが出
来るのではない。と、この作品の序文「グロテ
スクな存在の説明」という現代の悲劇—人間の問題—が、素朴な
形で表されている。人々は、グロテスクな存在であると考えられる

研究ノート

(101) オハイオ州ウィンズパークは、かつての人間が、アメリカの精神を結びつけていた場所。そう考えると、オハイオ州ウィンズパークは、人間が、世界をどう理解するか、どのように生きるか、その根拠を提供する重要な場所である。この作品の主題は、人々の生活を象徴する短篇である。短篇は、人々の生活に対する洞察が、描かれており、ある種の哲学的思考を含んでいる。

ウィンズパークは、作品の主題である人間の生活を象徴する短篇である。短篇は、人々の生活を象徴する重要な要素を含んでいる。人々の生活に対する洞察が、描かれており、ある種の哲学的思考を含んでいる。

ウィンズパークは、作品の主題である人間の生活を象徴する短篇である。短篇は、人々の生活を象徴する重要な要素を含んでいる。人々の生活に対する洞察が、描かれており、ある種の哲学的思考を含んでいる。
一橋論叢 第四十八巻 第二号 (102)

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
っているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
っているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
っているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
っているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
っているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
っているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
ているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
っているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
っているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
っているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
いているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアムを経て
の田舎町で、人間験を始ま
ているのだ、という事実を、無理に、もう少しくてよく
するのである。

次に、前節の、ジョージ・ウィリアムが髙のや旧頃に短福で
は、人間験をしていた人々を失っ
た人々がジョージ・ウィリアミ